

ソフトバレーで交流

勤労者の祭典

第24回勤労者の祭典(松浦市商工業労政推進協議会主催)が12月4日、文化会館で開催されました。

優良従業員表彰では、10事業所から選ばれた10人が表彰を受けました。また、同協議会の会員事業所相互の交流を目的に行われた職場対抗ソフトバレーボール大会には、市内事業所から12チーム、約120人が参加。元気いっぱいのプレーで親睦を深めました。結果は次の通りです。

- ① SAS-A (住商エアバッグ・システムズ(株))
- ② 中興化成 B (中興化成工業(株))
- ③ SAS-B (住商エアバッグ・システムズ(株))



東部交流センターが完成

東部交流センター開館式典

今福町に建設された東部交流センターの開館式典が12月4日、同施設で行われました。

この施設は、合併後における市民の交流促進と地域における生涯学習の推進基盤施設として建設されました。

式典では、公募により決定した施設の愛称「ふくふく2011」と大会議室の愛称「かじの葉ホール」の作者である市内の児童7人に表彰状が渡されたほか、地元の今福小学校5年生による歓迎アトラクションなどが行われました。また、式典終了後には、友広市長が愛称を付けた児童と一緒に看板の除幕を行いました。



豊作の感謝と祈願

白浜神社大祭

白浜神社の秋の大祭が12月2日、同神社で行われ、今年の豊作を感謝し、来年の豊作を祈願する「的打ち」と「稲舞」が奉納されました。

的に当たった矢の数で来年の豊凶を占う「的打ち」では、中川明宏宮司が神殿の天井二隅に取り付けられたワラで作られた直径約50cmの的めがけて3本ずつ矢を放ち、すべて命中させました。また、「稲舞」では、今年収穫した稲穂の束を田中陽豊君(7歳)が担いで、中川宮司と一緒に舞を奉納。その稲穂を集まった氏子など約60人に配り、来年の豊作を祈願しました。



大盛況！メロンまつり

松浦メロンまつり

恒例の松浦メロンまつり(JANAがさき西海松浦地区メロン部会主催)が12月4日、道の駅松浦海のふるさと館で開催され、市推奨特産品のアールスメロンの販売が行われました。

この日準備されたアールスメロンは、大箱(4~6個入り)にして約250ケース分。今年のメロンは、糖度が15~16度と甘さも十分で売れ行きもよく、松浦の旬の味覚を求める市内外からの買い物客で会場内はたいへんにぎわいました。



県大会代表者決まる

高齢者スポーツ大会

スポーツを通して、健康の保持・増進と高齢者相互の交流促進を目的とした、平成23年度松浦市高齢者スポーツ大会が11月17日から12月9日にかけて開催され、4種目で熱戦が繰り広げられました。

各種目の上位チームは、平成24年5月12日に長崎市を主会場として開催される第9回長崎県ねんりんピックに松浦市代表として出場します。

【グラウンドゴルフ】11月17日、市民運動公園

- ①里A ②里B ③里C

【ゲートボール】11月22日、つきの島公園

- ①今福B ②鷹島 ③今福A

【ペタンク】12月2日、市民運動公園

- ①大崎C
②里D
③親和A

【わのわリング】

12月9日、市民運動公園

- ①星鹿A
②大崎A
③星鹿B



家族で100歳をお祝い

徳田さん100歳の誕生日

徳田^{たかよし}隆美さん（御厨・前田）が12月10日、自宅で100歳の誕生日を迎えました。

徳田さんは、明治44年生まれ。若い頃は郵便局に勤め、休みの日には魚釣りや夫婦で旅行に行くことが楽しみだったそうです。

現在は、奥さんと長女夫婦の4人暮らし。自宅で新聞や本を読んだり、テレビで大相撲や時代劇を見たりするのが日課で、週に3回夫婦でデイサービスに出掛け、いろんな人とお話しすることを楽しみにしています。



おいしいおもちがつけたかな

里地区三世代交流事業

志佐町里地区の恒例行事「里ふれあい餅つき大会」が12月4日、同地区の公民館で行われました。

この行事は、地区の高齢者でつくる里不老会（金子正人会長）が、三世代の交流を通じて地区住民の親睦を深めようと毎年行っています。

この日は、子どもからお年寄りまで、約100人が参加。ペタンペタンと、もちをつく音がリズムよく響き、参加した住民は冬の風物詩を大いに楽しみました。

また、もちつきの後には、グラウンドゴルフ大会も行われ、参加者たちは和気あいあいと楽しい時間を過ごしました。



尼さんからの「あいのうた」

人権講演会

市民への人権啓発を目的とした人権講演会が12月4日、文化会館で開催され、約200人が集まりました。

講演会では、松浦市・平戸市内の中学生3人による人権作文の発表が行われた後、シンガーソングライターで浄土真宗本願寺派僧侶である「やなせなな」さんが、「心から心へと伝えられるあいのうた」と題して講演。やなせさんは、30歳で子宮体がんを克服した経験と尼僧という立場からの視点で生と死を見つめる癒しの歌を歌いながら「隣の人の痛みに関心、分かち合うことが大切」と熱いメッセージを送りました。

